

都市イメージに関連する要因の分析

1. 目的および方法
2. 結果と考察
3. 今後の課題

林 洋 一*

要 約

本論文は、離島と地方都市の居住者を対象として行なわれた都市イメージ調査の報告である。長崎県壱岐郡と鳥取県鳥取市の小学生・中学生・高校生、およびその両親を対象として、質問紙法によるイメージ調査を実施した。

その結果、地方在住者の「現在の生活に対する満足度」は、「大都市イメージ」にはそれほど大きな影響を与えないが、「今住んでいる所のイメージ」と関連性が高いことが示された。現在の生活に満足している者は、大都市を否定的に、現在の居住地を肯定的に評価しているのである。

また、大都市に対するあこがれと現在の生活に対する満足度との関係をみると、大学生から高校生までは関連が認められなかった。しかし、親の世代では、都市にあこがれを持つ者は現在の生活に対する満足度が低いという傾向が認められた。

1. 目的および方法

われわれは、大都市ならびに現在の居住地に対するイメージを、様々な角度から分析・検討してきた（都市イメージの分析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）。この論文では、前稿の都市イメージの分析に引き続いて、「壱岐・鳥取」調査の結果について述べる。

本稿では、分析の主な視点を、年代差に置いている。しかし、必要な場合には、地域差に関する分析も行なった。また、都市に対するあこがれや、現在の生活状況に対する満足度が、調査対象者の都市イメージに対してどのような影響を与えるかについても分析している。

調査項目ならびに対象者は、「都市イメージの分析」と同一である。すなわち、調査地点は鳥取県鳥取市と長崎県壱岐郡郷の浦地区であり、調査対象者は小学生・中学生・高校生、ならびにその父母である。調査の実施は、昭和59年11月（鳥取）、

および12月（壱岐）であった。

調査方法は、質問紙法を用い、学校を通じて配布・回収した。調査対象者の内訳は、表1に示す通りである。

表1 調査対象者の内訳

	子 供	父 親	母 親
壱岐	小学生 126 (小5)	109 (40.7)	123 (33.0)
	中学生 135 (中2)	124 (45.3)	137 (41.4)
	高校生 149 (高2)	129 (47.7)	142 (45.2)
鳥取	小学生 110 (小5)	87 (40.9)	101 (37.8)
	中学生 131 (中2)	106 (43.3)	119 (40.5)

注：数値は、人数。カッコ内はパーセント。

2. 結果と考察

〔A〕 大都市イメージと現在の生活に対する満足度

現在の生活状況に対する主観的な満足度は、都市イメージに対してどのような影響を与えるのだろうか。この問題を検討するために、現在の生活に対する満足度の高い群と低い群の間で、都市イメージ32項目（Q1）について平均値の差の検定を行なった。

現在の生活に対する満足度は、「あなたは、現

在の生活に、どの程度満足していますか。次の中から、あてはまるものを一つ選んで、お答え下さい。」という形で質問した。選択肢は、次の通りである。

1. 非常に満足している
2. かなり満足している
3. あまり満足していない
4. 全く満足していない

表2は、大都市イメージと現在の生活に対する満足度の関係を、年代別に示したものである。(なお、実際の分析にあたっては、回答のカテゴリー

表2 大都市のイメージと現在の生活に対する満足度

	小学生		中学生		高校生		両親		
	満足群	不足群	満足群	不足群	満足群	不足群	満足群	不足群	
1 つまらない	2.64	2.31	2.49	2.08	2.18	2.20	2.77	2.75	
2 しゃれた	3.64	3.67	3.61	3.69	3.93	3.90	3.71	3.62	
3 親しみにくい	3.70	3.56	3.63	3.47	3.55	3.68	3.86	3.70	*
4 深みのある	2.37	2.67	2.64	2.89	2.54	2.43	2.36	2.57	*
5 嫌い	3.16	2.68	2.64	2.39	2.44	2.50	3.26	3.06	*
6 明るい	3.86	4.03	3.84	4.13	3.72	3.85	3.22	3.40	*
7 忙しい	4.24	3.98	4.36	4.39	4.59	4.53	4.47	4.40	
8 派手な	4.28	4.17	4.34	4.44	4.63	4.62	4.42	4.36	
9 つめたい	3.54	3.50	3.76	3.72	3.91	4.00	4.13	3.97	*
10 柔かい	2.02	2.20	2.27	2.42	2.39	2.48	2.69	2.70	
11 安定した	2.31	2.43	2.40	2.56	2.75	2.77	2.22	2.36	*
12 複雑な	3.57	3.63	4.13	4.00	4.14	4.15	4.11	3.98	
13 広い	3.41	3.27	2.89	2.77	2.68	3.13	3.13	3.28	
14 生活しにくい	4.04	3.94	3.80	3.53	3.27	3.34	3.61	3.40	*
15 文化の程度が低い	2.13	2.36	1.96	1.80	1.68	1.75	1.81	1.85	
16 遊ぶところが少ない	3.56	3.20	2.94	2.84	2.30	2.13	1.98	1.93	
17 よい働き口が少ない	2.32	2.25	2.22	2.19	1.75	2.03	1.85	1.85	
18 人間関係がわずらわしくない	2.31	2.53	2.17	2.31	2.53	2.75	3.08	3.11	
19 安全	1.62	1.63	1.60	1.65	1.74	1.80	1.57	1.62	
20 整然としている	1.61	1.84	1.50	1.58	1.51	1.55	1.37	1.43	
21 人が暖かい	2.00	2.48	2.14	2.09	2.12	2.19	1.85	1.97	
22 犯罪が少ない	1.46	1.51	1.50	1.44	1.56	1.50	1.36	1.42	
23 公害が少ない	1.44	1.41	1.36	1.39	1.32	1.39	1.27	1.33	
24 交通が不便	2.78	2.81	2.31	2.42	1.45	1.41	1.40	1.53	*
25 買い物不便	2.25	2.24	1.92	1.72	1.27	1.39	1.48	1.53	
26 街並が汚い	3.13	2.98	2.83	2.67	2.50	2.46	2.59	2.52	
27 空気が汚い	4.52	4.24	4.50	4.51	4.41	4.27	4.56	4.57	
28 家が高い	2.69	2.91	2.28	2.11	1.83	1.96	1.76	1.80	
29 孤独な人が少ない	2.39	2.65	2.39	2.40	2.16	2.32	1.92	1.95	
30 自然が美しい	4.49	4.25	4.23	4.26	4.17	4.06	4.15	4.11	
31 気候が厳しい	3.50	3.24	3.11	2.99	3.12	3.17	3.06	3.08	
32 食べ物がまずい	3.25	3.18	3.00	3.15	3.06	3.02	2.94	2.73	*

注：数値は平均値。*は有意差（ $P < 0.05$ ）のある項目。

1, 2を「満足群」, 3, 4を「不満足群」として、再コード化している。また、分析は年代差を中心に行なった。したがって、父親・母親という区別は行なわず、両親のデータを合せたものを用いている。(ここでは、地域差の分析は行なっていない。)

小学生では、2項目に有意差が認められた。大都市が「嫌い」というイメージは、現在の生活に満足している群の方が高く、「人が暖かい」というイメージは、不満足群の方が高かった。また、中学生では「明るい」というイメージが、不満足群において有意に高い。高校生では、どのイメージにも有意差は認められなかった。

それに対して、両親の場合には、9項目において有意差が認められた。「親しみにくい」、「深みのある」、「嫌い」、「明るい」、「つめたい」、「安定した」、「生活しにくい」、「交通が不便」、「食物がまずい」である。これらの項目では、いずれも現在の生活に満足していない群は肯定的なイメージを、満足している群は否定的なイメージを持っていることが明らかになった。

小・中学生と高校生、両親の間でデータ数がかなり違うため直接的な比較はしにくい。この結果からみると、子どもたちよりも両親の方が大都市イメージと生活に対する満足度との間の関連性が深いように思われる。

〔B〕 今住んでいる所のイメージと現在の生活に対する満足度

現在の生活に対する満足度の高低が、現在の居住地に対するイメージとどのように関連するかを年代別に示しているのが表3である。

この表から、小学生の場合には8項目、中学生16項目、高校生11項目、そして両親の場合には25項目に有意差が認められたことがわかる。また、年代による項目の相違はあるが、否定的なイメージの平均値は現在の生活に不満足な群が高く、肯定的なイメージは満足している群が高いことも示されている。

なお、全ての年代で有意差が認められた項目は、「嫌い」、「明るい」、「つめたい」、「人が暖かい」

の4項目であった。これらは、いずれも情緒的な評価に関する項目である。それに対して、「忙しい」、「交通が不便」、「買い物が不便」の3項目はどの年代でも有意差は認められていない。これらは、かなり客観的な事実として認められているからであろう。

さらに、〔A〕,〔B〕の結果から、現在の生活に対する満足度は、大都市イメージよりも現在の居住地に対するイメージに強く関係していることがわかる。現実の生活は、当然現在の居住地で行なわれる。したがって、現在の生活に対する満足は居住地に対する満足と共通の要素があるのであろう。

〔C〕 大都市の人・この町の人に対するイメージと現在の生活に対する満足度

表4は、「大都市の人」に対するイメージと、現在の生活に対する満足度との関係を示したものである。質問文は、「大都市の人と、この町の人」について、あなたが感じていることを例にならって○印をつけなさい。」というものである(Q13参照)。

また、回答は5段階評定(1-5)であり、数値が大きいほどその項目のイメージが当てはまることを示す。

この表から、小学生において1項目(「付き合いにくい」)が有意になっていることがわかる。この項目では、現在の生活に対して満足している群の方が大都市の人を「付き合いにくい」としている。しかし、それ以外の項目ではいずれも有意にならず、「大都市の人」に対するイメージと現在の生活に対する満足度の高低は、あまり関係ないという結果であった。

表5は、「この町の人」に対するイメージと現在の生活に対する満足度との関係を示している。この表から、小学生では「嫌いだ」、「付き合いにくい」、「つめたい」、「信用できない」の4項目、中学生と両親は「嫌いだ」、「付き合いにくい」、「つまらない」、「センスの悪い」、「つめたい」、「信用できない」の6項目、高校生では「嫌いだ」、「つまらない」の2項目に有意差がみられたことがわ

表3 今住んでいる所のイメージと現在の生活に対する満足度

	小学生			中学生			高校生			両親		
	満足群	不足	満群									
1 つまらない	1.57	1.82	*	2.09	2.76	*	2.47	3.14	*	2.24	2.74	*
2 しゃれた	2.80	2.72		2.75	2.51	*	2.46	2.26		2.73	2.58	*
3 親しみにくい	1.49	1.66		1.63	1.95	*	1.60	2.06	*	1.73	2.13	*
4 深みのある	3.76	3.75		3.53	3.31		3.93	3.40	*	3.69	3.40	*
5 嫌い	1.35	1.82	*	1.70	2.56	*	2.01	2.67	*	1.79	2.32	*
6 明るい	4.17	3.77	*	3.61	3.00	*	3.51	2.97	*	3.67	3.28	*
7 忙しい	1.99	2.24		2.05	1.90		1.91	1.81		1.98	2.09	
8 派手な	2.64	2.75		2.48	2.19	*	2.09	2.12		2.17	2.16	
9 つめたい	1.59	1.93	*	1.81	2.16	*	1.59	2.06	*	1.85	2.17	*
10 柔かい	4.15	3.94		3.77	3.66		3.93	3.30	*	3.35	3.18	*
11 安定した	4.09	3.82		3.75	3.51		3.54	3.26		3.72	3.28	*
12 複雑な	2.37	2.28		2.32	2.34		2.34	2.43		2.39	2.58	*
13 広い	3.06	2.96		2.99	3.03		3.31	2.73	*	2.82	2.69	*
14 生活しにくい	1.29	1.74	*	1.77	2.20	*	2.24	2.46		2.10	2.59	*
15 文化の程度が低い	3.22	3.15		3.33	3.61	*	3.42	3.54		3.35	3.55	*
16 遊ぶところが少ない	1.96	2.39	*	2.76	3.00	*	3.41	3.55		3.59	3.81	*
17 よい働き口が少ない	2.95	3.31	*	3.72	3.72		4.19	4.18		4.25	4.41	*
18 人間関係がわずらわしくない	3.89	3.74		3.64	3.36	*	3.30	3.00		2.91	2.75	*
19 安全	4.41	4.29		4.21	3.98	*	4.06	3.93		4.12	3.88	*
20 整然としている	4.22	3.98		4.18	3.96	*	4.20	3.97		4.02	3.87	*
21 人が暖かい	4.36	4.05	*	4.08	3.80	*	4.04	3.67	*	4.10	3.77	*
22 犯罪が少ない	4.51	4.39		4.44	4.31		4.29	4.25		4.35	4.20	*
23 公害が少ない	4.47	4.51		4.52	4.36		4.51	4.47		4.49	4.37	*
24 交通が不便	2.69	2.70		3.12	3.26		4.06	4.25		3.72	3.80	
25 買い物不便	2.46	2.53		3.08	3.27		3.96	4.06		3.27	3.29	
26 街並が汚い	1.96	2.17		2.50	2.78	*	2.61	2.95	*	2.73	2.90	*
27 空気が汚い	1.30	1.51	*	1.46	1.61		1.37	1.67		1.40	1.43	
28 家が広い	3.61	3.29		3.57	3.56		3.90	3.73		3.78	3.47	*
29 孤独な人が少ない	3.81	3.62		3.61	3.40		3.70	3.41	*	3.75	3.51	*
30 自然が美しくない	1.36	1.36		1.53	1.68		1.40	1.54		1.41	1.61	*
31 気候が厳しい	1.95	1.74		2.16	2.50	*	1.77	2.06		2.25	2.34	*
32 食べ物がまずい	1.42	1.58		1.76	2.11	*	1.70	1.98		1.77	1.95	*

注：数値は平均値。*は t-検定の結果、有意差 (P<0.05) のある項目。

表4 大都市の人のイメージと現在の生活に対する満足度

	小学生			中学生			高校生			両親		
	満足群	不足	満群									
1 嫌いだ	3.38	3.10		2.96	3.05		2.96	2.95		3.12	3.05	
2 付き合にくい	3.77	3.34	*	3.28	3.15		3.06	3.09		3.28	3.27	
3 つまらない	3.47	3.37		2.99	3.11		2.88	2.98		3.06	3.02	
4 センスの悪い	2.65	2.48		2.15	1.97		2.04	2.13		2.17	2.25	
5 つめたい	3.79	3.58		3.58	3.40		3.32	3.34		3.56	3.57	
6 無関心	3.01	3.05		3.46	3.54		3.72	3.52		3.90	3.86	
7 信用できない	3.82	3.65		3.62	3.62		3.45	3.54		3.78	3.71	

注：数値は平均値。*は t-検定の結果、有意差 (P<0.05) のある項目。

かる。全ての年代に共通して有意になった項目は、に不満足な群は、満足群よりも「この町の人」を「嫌いだ」であった。この項目では、現在の生活嫌うという傾向が示されている。

表5 この町の人々のイメージと現在の生活に対する満足度

	小学生			中学生			高校生			両親		
	満足群	不足	満群									
1 嫌いだ	1.55	1.87	*	1.99	2.45	*	2.16	2.56	*	2.28	2.56	*
2 付き合いにくい	1.60	1.93	*	1.91	2.39	*	2.24	2.37	*	2.16	2.55	*
3 つまらない	1.97	2.14	*	2.48	2.80	*	2.49	2.80	*	2.65	2.92	*
4 センスの悪い	2.53	2.60	*	2.87	3.22	*	3.09	3.30	*	3.12	3.32	*
5 つめたい	1.57	2.00	*	1.94	2.28	*	2.11	2.33	*	2.05	2.31	*
6 無関心	2.69	2.86	*	2.70	2.64	*	2.54	2.48	*	2.31	2.36	*
7 信用できない	1.79	2.08	*	2.23	2.54	*	2.38	2.55	*	2.32	2.64	*

注：数値は平均値。*は有意差（ $P < 0.05$ ）のある項目。

表4、表5から、「現在の生活に対する満足度」は「大都市の人」に対するイメージにはほとんど関係しないが、「この町の人」に対するイメージとはかなり密接に関係していることがわかる。これは、現在の生活に対する満足度と、「大都市」や「この町」に対するイメージの場合と同様な傾向であるといえよう。

なお、各年代ごとの現在の生活に「満足している者」の比率は、以下の通りであった。

小学生	75.1%	中学生	46.5%
高校生	41.9%	両親	51.5%

〔D〕 大都市に対するあこがれと大都市イメージ

大都市の生活には様々な便利さや刺激があり、地方在住者にある種のあるあこがれや魅力を感じさせるのも、一面の事実であろう。表6は、各年代別の都市に対するあこがれを示している。（ここでは、壱岐と鳥取のデータを合せた結果を示す。）

表6 大都市に対するあこがれ

	小学生	中学生	高校生	両親
あこがれあり	42.1(98)	58.4(149)	72.3(107)	28.1(313)
あこがれなし	57.9(135)	41.6(106)	27.7(41)	71.9(801)

この表は、調査項目（Q4）の4段階評定（「とても、あこがれを感じる」から、「ぜんぜんあこがれを感じない」まで）を、「あこがれを感じる」「あこがれを感じない」の2段階に再コード化したものである。表から、両親の約7割が「あこがれを感じない」と回答しているのに対して、子どもたちは「あこがれを感じる」者の比率が非常に高いことがわかる。

小学生の場合には、あこがれを感じていない者の方が多いが、中学生になるとその比率は逆転し、サンプルは少ないが、高校生の約7割以上が大都市に対するあこがれを持つようになる。

それでは、大都市に対するあこがれは、大都市イメージに対してどのような影響を与えるのであろうか。表7は、各年代ごとにあこがれのある群とない群で、都市イメージの平均値がどのように異なるかを示したものである。（各年代ごとに、 t -検定を行なった。）

この表から、大都市イメージの32項目の中で、小学生は9項目、中学生は7項目、高校生は10項目、そして両親は23項目に有意差が認められたことがわかる。そして、各年代に共通して有意差が認められた項目は、「つまらない」、「しゃれた」、「嫌い」、「明るい」、「忙しい」、「安定した」の5項目であった。

表7 大都市に対するあこがれと大都市イメージ

	小学生	中学生	高校生	両親
1	2.11 (2.87)*	2.03 (2.61)*	2.04 (2.57)*	2.35 (2.91)*
2	3.91 (3.45)*	3.88 (3.30)*	4.00 (3.66)*	3.86 (3.60)*
3	3.45 (3.78)*	3.43 (3.66)	3.57 (3.78)	3.42 (3.92)*
4	2.57 (2.37)	2.67 (2.84)	2.47 (2.45)	2.62 (2.40)*
5	2.22 (3.62)*	2.19 (2.96)*	2.26 (3.02)*	2.46 (3.43)*
6	4.22 (3.67)*	4.10 (3.78)*	3.96 (3.35)*	3.55 (3.23)*
7	4.09 (4.24)	4.32 (4.36)	4.63 (4.38)	4.33 (4.48)*
8	4.35 (4.17)	4.46 (4.20)*	4.72 (4.40)*	4.39 (4.40)
9	3.38 (3.61)	3.74 (3.70)	3.91 (4.11)	3.80 (4.15)*
10	2.15 (2.02)	2.34 (2.40)	2.42 (2.47)	2.81 (2.66)*
11	2.68 (2.08)*	2.53 (2.45)	2.87 (2.45)*	2.41 (2.24)*
12	3.55 (3.62)	4.08 (4.01)	4.17 (4.07)	4.04 (4.05)
13	3.57 (3.24)	2.82 (2.88)	3.01 (2.69)	3.23 (3.19)
14	3.69 (4.24)*	3.35 (3.73)	3.26 (3.45)	3.03 (3.69)*
15	1.98 (2.35)*	1.82 (1.99)	1.65 (1.92)	1.67 (1.89)*
16	3.44 (3.45)	2.60 (3.23)*	2.03 (2.65)*	1.74 (2.02)*
17	2.16 (2.40)	2.10 (2.35)	1.88 (2.02)	1.61 (1.93)*
18	2.42 (2.33)	2.20 (2.34)	2.65 (2.66)	3.32 (3.00)*
19	1.65 (1.62)	1.66 (1.62)	1.78 (1.79)	1.66 (1.57)
20	1.71 (1.66)	1.57 (1.57)	1.49 (1.65)	1.50 (1.36)*
21	2.26 (2.05)	2.12 (2.08)	2.23 (2.00)	2.02 (1.86)*
22	1.39 (1.55)	1.47 (1.48)	1.54 (1.48)	1.36 (1.39)
23	1.46 (1.41)	1.34 (1.44)	1.32 (1.44)	1.32 (1.29)
24	2.65 (2.91)	2.24 (2.55)	1.28 (1.83)*	1.34 (1.49)*
25	2.13 (2.34)	1.67 (1.99)*	1.24 (1.60)*	1.34 (1.56)*
26	3.00 (3.13)	2.69 (2.83)	2.34 (2.83)*	2.43 (2.61)*
27	4.35 (4.51)	4.54 (4.44)	4.27 (4.51)	4.36 (4.57)*
28	2.76 (2.74)	2.27 (2.09)	1.90 (1.88)	1.79 (1.77)
29	2.55 (2.40)	2.36 (2.37)	2.17 (2.41)	1.99 (1.92)
30	4.28 (4.51)	4.23 (4.23)	4.07 (4.20)	4.00 (4.18)*
31	3.44 (3.40)	3.09 (2.94)	3.13 (3.20)	2.98 (3.10)
32	2.97 (3.39)*	3.11 (3.04)	3.01 (3.09)	2.59 (2.95)*

注：数値は平均値，カッコ外 あこがれのある群，カッコ内はあこがれのない群。

*は，t-検定の結果，有意差 ($P < 0.05$) のある項目。

つまり，大都市に対するあこがれのある者は，そうでない者よりも，大都市を「楽しく，しゃれた，好きな，明るい，安定した」所とみる傾向があることが示されていると言えよう。それに対して，「複雑な，広い，安全，犯罪が少ない，公害が少ない，家が広い，孤独な人が少ない，気候が厳しい」などのイメージは，大都市に対するあこが

れとはあまり関係がないものと考えてもよいであろう。

〔E〕 大都市に対するあこがれと大都市の人のイメージ

大都市に対するあこがれが，大都市の人に対するイメージにどのような影響を与えるかをみたの

が、表8である。この表では、大都市にあこがれのある群とない群で、大都市の人に対するイメージがどのように相違するかが示されている。

表8 大都市に対するあこがれと大都市の人のイメージ

	小学生	中学生	高校生	両親
1	2.89 (3.59)*	2.88 (3.14)*	2.90 (3.09)	2.83 (3.18)*
2	3.24 (3.96)*	3.08 (3.36)*	3.03 (3.21)	3.07 (3.35)*
3	2.97 (3.75)*	2.96 (3.14)	2.91 (3.04)	2.80 (3.13)*
4	2.15 (2.94)*	1.81 (2.42)*	1.98 (2.38)*	2.00 (2.29)*
5	3.42 (3.94)*	3.42 (3.55)	3.27 (3.53)*	3.34 (3.64)*
6	3.17 (2.90)	3.48 (3.52)	3.62 (3.54)	3.86 (3.88)
7	3.64 (3.86)	3.62 (3.58)	3.44 (3.69)	3.59 (3.80)*

注：数値は平均値，カッコ外はあこがれのある群，カッコ内はあこがれのない群。

*は，t-検定の結果，有意差（ $P < 0.05$ ）のある項目。

大都市の人のイメージに関する7項目の中で、小学生では5項目、中学生3項目、高校生2項目、そして両親では6項目に有意差が認められた。これらの項目の中で、全ての年代に共通に差がみられたのは、「センスの悪い」のみであった。つまり、大都市にあこがれを持つ人はそうでない人よりも、大都市の人をセンスのよい人としてとらえていることになる。

反対に、全ての年代で差が認められなかったのは、「無関心」という項目である。換言すれば、大都市の人に対するこのイメージは、大都市に対するあこがれに直接関係しないと思われる。

〔F〕 大都市に対するあこがれと現在の生活に対する満足度

大都市に対するあこがれは、様々な要因によって生じる。その一つに、現在の生活に対する不満があるのではないだろうか。そこで、現在の生活に対する満足度と、大都市に対するあこがれのクロス集計を年代ごとに行なった。その結果を、表9に示す。（この表では、現在の生活に対する満足度（Q16）の4段階評定を、満足・不満足という2段階に再コード化している。）

年代ごとに X^2 検定を行なった結果、両親のみが有意になった（ $X^2 = 10.2$, $df = 1$, $P < 0.01$ ）

表9 大都市に対するあこがれと現在の生活への満足度

	小学生		中学生		高校生		両親	
	満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満
あこがれあり	47 (43.9)	60 (56.1)	61 (40.9)	88 (59.1)	72 (73.5)	26 (26.5)	137 (43.8)	176 (56.2)
あこがれなし	15 (36.6)	26 (63.4)	56 (52.8)	50 (47.2)	103 (76.3)	32 (23.7)	436 (54.4)	365 (45.6)

注：カッコ外の数値は人数，カッコ内はパーセント。

が、他の年代では有意にならなかった。つまり、両親の場合には、大都市に対するあこがれを持つ者は現在の生活に対して不満を持つ傾向がある。しかし、他の年代では必ずしもそうは言えないということであろう。

この理由は明らかではないが、両親が現在の生活に不満を持つときには、仕事や居住環境などを変える必要がある。それには大都市の方が地方よりも有利な点が多いため、現在の生活に不満を持つ者が、大都市に対するあこがれを強くするということがあるのかもしれない。それに対して、子供たちはもう少し純粋な形で、大都市に対するあこがれを持つため、現在の生活に対する満足度と大都市に対するあこがれがあまり関連を持たなかったであろう。

3. 今後の課題

本研究の結果、都市イメージの年代差は、客観的な事実ではなく、ことに感情的・情緒的な評価において認められることが示された。また、大都市に対するあこがれは、高校生に特に強くみられること、小学生は今住んでいる所に対して肯定的な評価が強いことも明らかになった。さらに両親（成人）では、大都市に対するあこがれを持つ者は、現在の生活に対する満足度が低いことも示さ

れている。

今後の研究においては、イメージのみではなく、より具体的な行動、たとえば進学するとき大都市の大学を選ぶか否かとか、就職する場所は大都市か郷里か、また大都市に就職しても最終的には郷里に帰るつもりがあるのかなどを分析していく必要がある。

さらに、大都市に対する否定的なイメージはどこから来るのか、またそれは客観的な事実か否かなどを検討していく必要があるであろう。

参考文献

加藤義明

1984 「都市イメージの分析Ⅰ」
東京都立大学人文学報 第168号
pp. 75 - 120.

加藤義明・山本真理子

1984 「都市イメージの分析Ⅱ」
日本教育心理学会総会発表論文集

加藤義明・詫摩武俊・林 洋一・山本真理子

1985 「都市イメージの分析Ⅲ」
日本教育心理学会総会発表論文集

加藤義明

1986 「都市イメージの分析」
総合都市研究 27 pp. 3 - 25

Key Words (キー・ワード)

Images (印象), Tottori (鳥取), Iki (壱岐) Large City (大都市), Developmental View (発達の視点)